

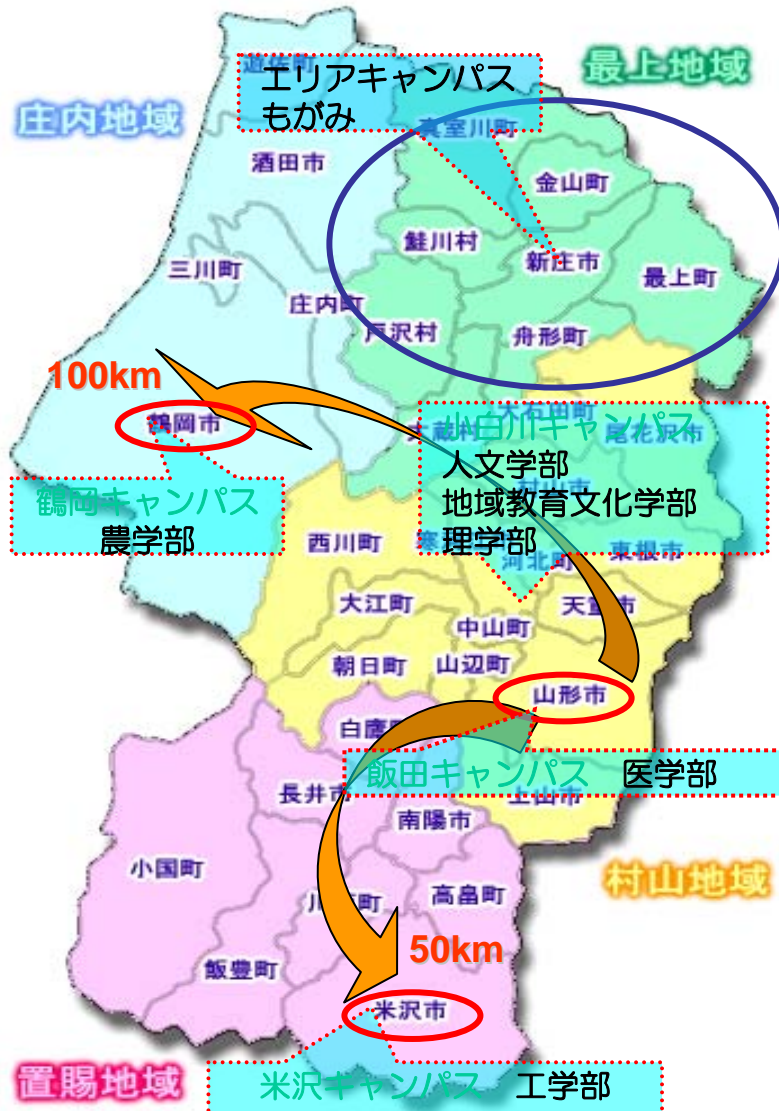
山形大学の組織・研究評価

平成21年11月9日

研究プロジェクト戦略室 教授
小嶋 典夫

山形大学の概要

1949.5設置＊6学部6研究科を擁する地方中規模総合大学



○21世紀テーマ：自然と人間の共生
 ○Leading concept:
地域に根ざし、世界を目指す

○経営の基本方針：
 ◇学生が主役となる大学創り
 ◇教育、特に教養教育の充実

○学生数：9,268人＝学部 7,933人、
 大学院 1,335人
 ○職員数：1,904人＝教員883人、職員1,021人
 ○H21収支予算 **335億円**
 教育研究診療等 284億円
 うち授業料等収入 56億円、
 附属病院収入105億円、
 運営費交付金123億円
 外部資金 **13億円**
 施設整備費補助金 32億円
 ○科学研究費補助金 **6億円 (251件)**

山形大学のポリシー その1

山形大学のあるべき姿

—21世紀を展望した山形大学の将来像—

(平成13年2月11日)

Ⅲ 大学院及び研究機能の改善充実

3 独創的な研究の促進

(1) 独創的な研究分野と課題

2) プロジェクト型研究

・高度な研究, 大規模な研究, 境界分野の研究を推進するために学科, 学部・研究科横断的な特色ある研究プロジェクトを推進する。

・学内で, 研究課題の公募を行い, 選考の上, 時間・資金・場所の支援を行うシステムを検討する必要がある。

山形大学のポリシー その1 (2)

Ⅲ 大学院及び研究機能の改善充実

3 独創的な研究の促進

(2) 研究体制と支援体制

3) 研究資金の確保

研究資金を確保するために、積極的に競争的研究資金の導入を図る。

・内部資金の確保

学内で研究資金を確保し、学内公募の研究課題の中から選ばれた研究に対し、研究資金、場所の提供等の支援を検討する必要がある。

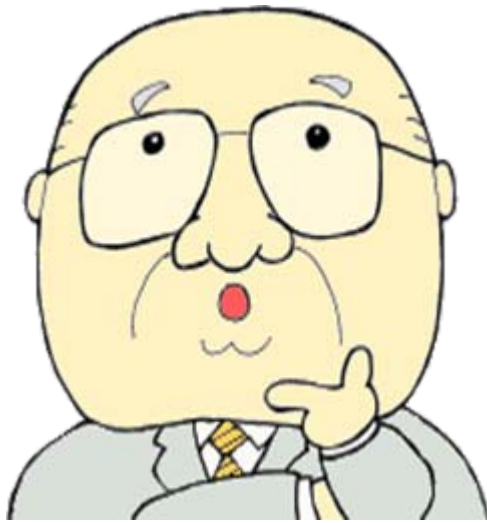
山形大学のポリシー その2

これからの2年間の山形大学の行動指針(マニフェスト)
通称「**仙道マニフェスト**」(平成17年9月16日)

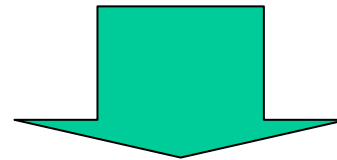
山形大学の理念「自然と人間の共生」、「充実した人間教育」、
「社会との連携重視」を目指した種々の重点施策

9) 先進的研究に対する支援(任期付き教員定員の確保等)

世界的な研究を目指す先進的な研究に対する大学としての支援は、財政的なものではなく、研究者が十分な研究を行うことの出来る環境を整備することであると考えている。その一環として、今回、先進的研究分野に対する申請に基づく任期付き教員の採用を行うものである。



仙道前学長
H13/9-H19/8



- ・ 先進的研究支援のための教員配置を伴うプロジェクト
- ・ 戦略的研究プロジェクトに対する任期付き教員の支援

先進的研究支援のための教員配置を伴うプロジェクト

・目的

本学における学術研究等の特別の推進を図るため仙道マニフェストに掲げた先進的研究プロジェクトに対して、任期付き教員による人的支援を行うことにより、当該プロジェクトの十分な研究環境を整備する。

・支援教員の職及び人員

原則として助教 全学で2人

・支援教員の身分等

個別契約任期付教員、ただし、学長が必要と認めるときは特任教授

・応募方法

先進的研究プロジェクトの代表者が、当該プロジェクトの概要、支援教員の職務内容等を記載し提出。

・募集期間

平成18年3月3日～平成18年3月31日

先進的研究支援のための教員配置を伴うプロジェクト(2)

- 応募件数

10件(理学部4件、医学部1件、工学部2件、農学部2件、学術情報センター1件)

- 採択に係る審査

外部審査委員1名を含む審査会(学長、各理事、外部審査委員)で、提案プロジェクトのヒアリングを行い選定

- 採択件数

3件(学長裁量定員2名(医学、農学)、学長裁量経費1名(工学))

他に選定に漏れた提案4件に対し、平成18年度限りで各50万円を支援

先進的研究支援のための教員配置を伴うプロジェクト(3)

平成18年度採択プロジェクト

- 工学部城戸淳二教授 「山形県有機エレクトロニクスバレー構想プロジェクト」(18. 8. 1~22. 7. 31)
- 農学部安田弘法教授 「熱帯の土壌微生物が植物・植食者・捕食者群集の多様性創出とその共存に及ぼす影響」(18. 7. 1~22. 6. 30)

平成19年度採択プロジェクト

- 医学部嘉山孝正教授 「放射線医学総合研究所HIMAC利用共同研究「重粒子線によるがん細胞殺傷メカニズムに関する検討」」(19. 4~23. 3)

中間評価の実際

先進的研究支援のための教員配置を伴う プロジェクトの支援制度に係る中間評価審査要項

1.目的

本学における学術研究等の格段の充実発展を図るため、「この2年間の山形大学の行動指針(平成17年9月16日制定)」「(仙道マニフェスト)」に掲げた先進的研究プロジェクトに対し、特に任期付き教員配置により支援を行っているが、当該教員配置による研究プロジェクトの成果を検証し、今後、研究プロジェクトの格段の充実発展を期する。

2.評価方法等

中間評価は、プロジェクト代表者が作成する

平成18年度実施プロジェクト:自己点検中間評価書

平成19年度実施プロジェクト:中間報告書

に基づき実施する。

中間評価の実際

(1) 評価方法（開始2年目のプロジェクト）

- ① 書面審査(第1段審査)
- ② ヒアリング審査
- ③ 書面審査(第2段審査): 書面審査(第1段審査)及びヒアリング審査を踏まえ、合議審査

(2) 評価の委員

- ① 書面審査(第1段審査)の審査員は、プロジェクト代表者が推薦する学外有識者を参考に、役員会が選考する者(2名)とする。
- ② ヒアリング審査の審査員は、学長及び研究を担当する理事とする。
- ③ 書面審査(第2段審査)は、役員会が行う。

中間評価の実際

(2) 評価スケジュール

- ① 5月末 中間報告書等の提出期限
- ② 6月中旬 **ピア・レビューによる書面審査(第1段審査) 注)**
- ③ 6月下旬 ヒアリング審査 (学長及び研究担当理事)
- ④ 7月上旬 書面審査 (第2段審査、役員会)
- ⑤ 7月 教育研究評議会へ報告

様式 1

先進的研究支援のための教員配置を伴うプロジェクトの
支援事業に係る中間評価審査表

プロジェクト名: _____

審査員名: _____ 印

○書面審査 (第1段審査)

評 価 要 素	評 点	
① 当初の研究目的に沿って、着実に研究計画が実施されているか。		
② 当初の研究目的に照らして、現時点で期待される成果を挙げているか (挙げつつあるか)。		
③ これまでの研究成果に照らして、今後の研究計画は妥当なものとなっているか。		
④ 研究組織は、当該教員の配置に伴い、研究者相互に有機的連携がもたれ、研究が効率的に進められるものとなっているか。		
〈意見〉(評価に至ったポイントを記入願います。別添も可)		

注)ピアレビューは、研究代表者が選んだ、外部のレビュワー2人によってなされる。
右様式が、ピアレビューの審査書 →

中間評価の実際

3. 審査方針

(1) 書面審査(第1段審査)

A 評価要素

- ①当初の研究目的に沿って、着実に研究計画が実施されているか。(「研究の進展状況」欄)
- ②当初の研究目的に照らして、現時点で期待される成果を挙げているか(挙げつつあるか)。(「研究成果」欄)
- ③これまでの研究成果に照らして、今後の研究計画は妥当なものとなっているか。(「研究計画」「研究の進展状況」「研究成果」欄)
- ④研究組織は、当該教員の配置に伴い、研究者相互に有機的連携がたもたれ、研究が効率的に進められるものとなっているか。(「研究体制及び支援教員配置計画」欄)

(※評価要素の()書きは、中間報告書における主な参照箇所を示します。)

中間評価の実際

B 評価基準

評価要素①～④について、次の評価基準により評点を付す。

評 点	評 価 基 準
A	現行のまま推進すればよい
B	努力の余地がある
C	一層の努力が必要である
D	このまま事業を継続することは適当でない

(2) ヒアリング審査

書面審査の評価要素①～④について、次の評価基準により評点を付す。

評 点	評 価 基 準
A	現行のまま推進すればよい
B	努力の余地がある
C	一層の努力が必要である
D	このまま事業を継続することは適当でない

中間評価結果

プロジェクトの名称: 山形県有機エレクトロニクスバレー構想プロジェクト
プロジェクトの代表者: 城戸淳二

(総括評価)

当初計画は順調に実施されており、現行の努力を継続し、今後の研究の進展を期待する。

(コメント)

平成18年度まで2つのNEDOプロジェクトの基礎的な研究を担当し、有機ELにおいては、世界トップレベルの研究成果を上げた。特に、白色発光有機ELにおいては、発光効率、素子寿命ともに世界トップレベルの成果を達成して、実用化に向けて研究開発を有機エレクトロニクス研究所に引き継ぎ、研究を展開している。当初の研究目的に沿って研究計画が推進され、着実に成果が上がっているものと思われる。

また、研究体制については、平成18年7月に有機材料研究に詳しい夫勇進助教、有機トランジスタなどの有機デバイス研究に詳しい中山健一准教授、平成18年8月に有機半導体材料からデバイスの基礎に関して深く精通する横山正明特任教授が加わり、広く有機デバイス研究を進展するための研究体制が整ったものと思われる。城戸教授のリーダーのもとで、相互に関連する有機デバイスの研究を連携して分担することで、今後の大きな研究に進展が期待される。

中間評価結果

プロジェクトの名称: 熱帯の土壤微生物が植物・植食者・捕食者群集の多様性
創出とその共存に及ぼす影響

プロジェクトの代表者: 安田弘法

(総括評価)

当初計画は順調に実施されており、現行の努力を継続し、課題解決と今後の研究の進展を期待する。

(コメント)

生物群集の多様性創出とその維持機構の解明に、土壤微生物・植物・植食性昆虫・捕食性節足動物の4者系を用いて、その相互作用をボトムアップ効果の観点から実証的に検証しようとする試みは、野心的であり独創的である。

しかし、当初の予想とは異なる結果も得られており、今後における成果の評価はそれらの意外な結果に対してどのような答えを得ていくかにかかっているように思われる。例えば、菌根菌の形成は植物の成長を助長し、病原菌に対する抵抗力を高めると考えられてきたが、鶴岡とジャワにおける野外実験の結果は、いずれの季節においても殺菌剤処理区で植物のバイオマスがコントロール区よりも有意に大きいことを示している。ただし、カリマンタンではそのような傾向は検出されていない。これには、実験の不備も考えられるが、菌根菌が植物群集に及ぼす影響に関する従来の常識を覆す重要な結果である可能性もあるように思われる。本研究は、それらの結果に答えを出す方向で多少研究計画を修正されるよう期待したい。

中間評価結果

プロジェクトの名称:放射線総合医学研究所HIMAC利用共同研究「重粒子線によるがん細胞殺傷メカニズムに関する検討」

プロジェクトの代表者:嘉山孝正

(総括評価)

当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される。

(コメント)

重粒子線による癌の細胞死のメカニズムが非アポトーシスプログラム細胞死であるとの仮説を立てての計画は、細胞死のメカニズムだけではなく、重粒子線治療に対する耐性のメカニズムについても解明しつつある。

重粒子線治療による細胞死及び耐性メカニズムを解明することにより、薬剤や分子標的薬と併用した重粒子治療など、革新的な癌の治療戦略が発信される可能性が高く、今後大いに研究の進展が期待される。

中間評価の実際

(1) 評価方法（開始3年目のプロジェクト）

- ① 自己点検中間評価の実施をもって中間評価に換える。
- ② 必要に応じて、役員会においてヒアリングを実施することがある。

(2) 自己点検中間評価

A 評価要素

- ① 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか。
- ② 当初の研究目的に照らして、現時点で期待される成果を挙げているか。

B 評価基準

評 点	評 価 基 準
A	計画どおり順調に進展している
B	計画どおり概ね進展している
C	研究の進捗が遅れている

戦略的研究プロジェクトに対する任期付き教員の支援

・目的

本学における国際的に通用する、特に先進的研究の推進を図るため、任期付き教員の配置に必要な人件費の支援を行う。

・支援内容

支援人員：原則1人

支援経費：支援人員1人に対して5,000千円/年額を目途とする。

(本支援経費を超える人件費については、プロジェクト代表者等において負担すること。)

経費の用途：教授、准教授、助教(以下「教員」という。)及び特任教授の人件費に充当する。

身分：個別契約任期付教員 または 特任教授

支援期間：同一プロジェクトに対して3年以内

・中間評価・事後評価

①中間評価は、2年度目に実施する。

②事業終了後、提出された成果報告書に基づき事後評価を実施する。

戦略的研究プロジェクトに対する任期付き教員の支援

•審査

(1)審査方法

①書面審査(第1段審査)

②ヒアリング審査

③書面審査(第2段審査):書宙審査(第1段審査)及びヒアリング審査を踏まえ、合議審査

(2)審査員

A 書面審査(第1段審査)の審査員は、プロジェクト代表者が推薦する**学外有識者**を参考に、役員会が選考する者(2名)とする。

B ヒアリング審査の審査員は、学長及び研究を担当する理事とする。

C 書面審査(第2段審査)は、役員会が行う。

戦略的研究プロジェクトに対する任期付き教員の支援

・審査方針

(1)書面審査(第1段審査)

A 評価要素

- ①学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ②研究目的を達成するため、研究計画は十分に練られ、その進め方が着実なものとなっているか。
- ③組織全体としての研究遂行能力は十分に高いか。また、支援教員等は十分大きな役割を果たすことが期待されるか。
- ④従来受けていた研究費での研究成果を評価するとともに、研究課題に対する高い遂行能力を有していると判断できるか。

B 評価基準：評価要素①～④について5段階評価

(2)ヒアリング審査：上記評価要素①～④について5段階評価

(3)書面審査(第2段審査)：書面審査(第1段審査)及びヒアリング審査の評価結果を基に、合議により支援プロジェクトを決定

戦略的研究プロジェクトに対する任期付き教員の支援

・応募件数

7件(人文学部1件、理学部1件、医学部1件、工学部2件、農学部1件、学情セ1件)

・採択件数

1件(学長裁量経費で1名採用分)(理学)

他に1件平成19年度限りで50万円を支援(工学)

・採択プロジェクト

理学部岩田高広教授「CERN－COMPASSにおけるハドロン構造の研究」(19. 4～22. 3)

平成20年度中間評価実施(中間報告書により実施済)(H20. 6. 10～15)

平成22年度事後評価を実施予定

中間評価

戦略的研究プロジェクトに対する任期付き教員の 支援制度に係る中間評価要項

1. 目的（略）

2. 評価方法等

中間評価は、プロジェクト代表者が作成する中間報告書に基づき実施する。

(1) 評価方法

① 書面審査(第1段審査)

② ヒアリング審査

③ 書面審査(第2段審査): 書面審査(第1段審査)及びヒアリング
審査を踏まえ、合議審査

中間評価

(2) 評価の委員

- ① 書面審査(第1段審査)の審査員は、プロジェクト代表者が推薦する学外有識者を参考に、役員会が選考する者(2名)とする。
- ② ヒアリング審査の審査員は、学長及び研究を担当する理事とする。
- ③ 書面審査(第2段審査)は、役員会が行う。

3. 審査方針

(1) 書面審査(第1段審査)

A 評価要素

- ① 当初の研究目的に沿って、着実に研究計画が実施されているか。
- ② 当初の研究目的に照らして、現時点で期待される成果を挙げているか(挙げつつあるか)。

中間評価

③これまでの研究成果に照らして、今後の研究計画は妥当なものとなっているか。

④研究組織は、当該教員の配置に伴い、研究者相互に有機的連携がたもたれ、研究が効率的に進められるものとなっているか。

B 評価基準

評価要素①～④について、次の評価基準により評点を付す。

評 点	評 価 基 準
A	現行のまま推進すればよい
B	努力の余地がある
C	一層の努力が必要である
D	このまま事業を継続することは適当でない

中間評価

(2) ヒアリング審査

書面審査の評価要素①～④について、次の評価基準により評点を付す。

評点	評価基準
A	現行のまま推進すればよい
B	努力の余地がある
C	一層の努力が必要である
D	このまま事業を継続することは適当でない

(3) 書面審査

書面審査(第1段審査)及びヒアリング審査の評価結果を基に、合議により中間評価を決定する。

中間評価結果

プロジェクトの名称:CERN-COMPASSにおけるハドロン構造の研究
プロジェクトの代表者:岩田高広

(総括評価)

当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される。

(コメント)

本研究は素粒子・原子核分野における「核子スピンの起源」を解明するものであり、新しい実験データが国際的にも待たれている分野である。申請者は国際競争の激しいこの領域では成否の鍵を握る「偏極ターゲット」を長年開発してきており、着実に成果が上がっている。

また、実験データを収集しながら、国際共同実験の各グループの中で存在を示しつつ、支援事業のサポートを得て、CERNに常駐する研究チームを形成できたことは今回の成果の大きな要素であり、今後の大きな研究に進展することが期待される。

山形大学のポリシー その3



Yamagata University Keeps Innovation PLAN



「学生が主役の大学創り」をめざす結城プランは毎年進捗状況を掲載します。※ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

【編集発行】
●
山形大学役員会
【お問い合わせ先】
●

山形大学企画部経営企画ユニット

〒990-8580 山形市小白川町1-4-12 Tel:023-628-4190 Fax:023-628-4186
e-mail: ktkada@jm.kj.yamagata-u.ac.jp http://www.yamagata-u.ac.jp/index.html



単頁印刷用
地球教育文化学部 小野としあき



Yamagata
University
Keeps
Innovation
PLAN

結城プラン 2008

学生が主役の大学創り



2008年1月
山形大学

結城プラン 研究分野

Research

研究

競争的環境の下で基礎研究を推進しつつ、
地域立脚型の学術研究
および独創的で国際的に通用する高い水準の研究、
並びに人材育成へ重点投資を進めます。



執行役員
河田 純男 先生

研究マネジメントの推進

■ 本学独自のYU-COE(山形大学先進的研究拠点)の形成を図るとともに、人・モノ・資金の支援体制の抜本的強化を図ります。

■ 本学において基礎研究を推進し、競争環境に適合するため、これに関わる全ての研究者(教員、ポスドク⁽¹⁾)、大学院博士課程後進生⁽²⁾を対象とし、長期的視点に立った支援制度の抜本的強化を図ります。

■ 国際共同研究プロジェクトの導入の場を拡大します。

■ 競争的資金の獲得を促進し、研究のレベルアップを図り、競争的研究資金の確保を図ります。

YU-COE(山形大学先進的研究拠点)の形成に向けた支援策

■ 21世紀COE⁽³⁾の「地域特性を生かした分子炭素学研究」の成果を踏まえ、グローバルCOEプログラム⁽⁴⁾の形成を図ります。

■ 21世紀COE
文部科学省の重点領域イノベーション推進事業、COE(Center of excellence) 卓越研究拠点。

■ 最先端の研究プロジェクトに対する主任研究員の配置を促進して支援します。

■ 医・学、農・林・水・食・環境学、スポーツ・生活学、農学、工学など学際分野を結ぶ研究グループを組織し、メタリサーチ・プラットフォーム共同研究プロジェクトを立ち上げるなど、学際研究プロジェクトの推進を図ります。

■ 競争的資金の獲得を促進し、競争的研究資金の確保を図ります。



■ 競争的資金の獲得を促進し、競争的研究資金の確保を図ります。



競争的研究資金への対応

■ 競争的研究資金の2009年度申請件数1,000件を目標とします(2008年度本学申請件数734件)。

■ 競争的研究資金に不採択となった42歳以下の若手教員を対象とし、次年度以降の採択に向け研究期間の支援を行います(20~30万、1件30万円程度)。

■ 競争的研究資金の採択に不採択となった若手教員を対象とし、次年度以降の採択に向け研究期間の支援を行います(20~30万、1件30万円程度)。

■ 競争的研究資金の採択に不採択となった若手教員を対象とし、次年度以降の採択に向け研究期間の支援を行います(20~30万、1件30万円程度)。

■ 競争的研究資金の採択に不採択となった若手教員を対象とし、次年度以降の採択に向け研究期間の支援を行います(20~30万、1件30万円程度)。

女性教員・若手教員育成のための支援策

■ 女性教員を対象とし、国内外で開催される国際学会への旅費を支援します。

■ 新任教員を対象とし、スタートアップにかかる研究支援を行います(4件程度、1件100万円程度)。

■ 競争的資金に応募し惜しくも不採択となった中から、特に今後の進展が期待できる課題を選考し、1学部・部門1プロジェクトとして研究資金を支援します。



〜山形の産物〜

女性教員・若手教員育成のための支援策

■ 女性教員を対象とし、国内外で開催される国際学会への旅費を支援します。

■ 新任教員を対象とし、スタートアップにかかる研究支援を行います(4件程度、1件100万円程度)。

■ 競争的資金に応募し惜しくも不採択となった中から、特に今後の進展が期待できる課題を選考し、1学部・部門1プロジェクトとして研究資金を支援します。

結城プランで創設されたプロジェクト



結城学長 H19/9-
似顔絵イラスト：
地域教育文化学部 小野としみ
さん 作

- 新任教員のスタートアップ支援
- 科学研究費補助金に関する若手教員研究助成
- 大型の競争的外部資金獲得のための支援
- 女性教員の国際学会への旅費支援
- 科学研究費補助金計画書に関するアドバイザー制度

新任教員のスタートアップ支援

•事業の目的

本制度は、若手教員育成のための基礎作りとして、新任教員を対象とし、研究開始時の環境整備など、スタートアップに係る支援を行うことを目的とする。

•支援の内容

- 支援件数は、4件程度
- 支援経費は、1件あたり100万円
- 支援期間は、単年度

新任教員のスタートアップ支援 (2)

•応募方法等

応募条件: 42歳以下の新任教員、次年度科研費に申請すること

応募方法: 部局長が当該部局をとりまとめ申請。件数制限なし。

提出期限: 7月31日(平成21年度の場合)

•選考方法

役員会において決定

必要に応じ役員会においてヒアリングを実施

•成果報告等

次年度5月末までに提出

成果報告書は本学HPに掲載し公表する

新任教員のスタートアップ支援 (3)

- 応募数 平成20年: 9人
 平成21年: 17人
- 採択数 平成20年: 3人
 平成21年: 4人

• 審査

前提条件: 科研費を取っていない、他の学内競争的資金を取っていない

事前審査: 研究担当理事及び学部出身理事が審査役員会で決定

新任教員のスタートアップ支援 (4)

前年度実績 (100万円×3人=300万円)

採択種目	採択数	直接経費内定額(千円)				
		21年度	22年度	23年度	24年度	計
若手研究スタートアップ	1	1,050	910	0	0	1,960
計	1	1,050	910	0	0	1,960

内定者所属部局

採択種目	
若手研究スタートアップ	医学部

科学研究費補助金に関する若手教員研究助成

目的

本制度は、自由な発想に基づき、先進的で独創性のある研究を進めようとしている本学の若手教員であって、科学研究費補助金に応募したが惜しくも不採択となった研究課題に対して、次年度以降の採択に向け、その研究経費の一部を支援し、研究環境の充実を図ることを目的とする。

助成の内容

助成件数：全体で30件程度

助成額：1件につき50万円／年の範囲内

助成期間：単年度

科学研究費補助金に関する若手教員研究助成(2)

- 応募方法等

- 募集条件

- 当該年度科学研究費補助金に応募し不採択になった者
- 年齢42歳以下
- 次年度以降の科研費申請・獲得に向けビジョンのある者

- 応募方法

- 部局長は、当該部局を取りまとめ申請する
- 申請件数に制限を設けない
- 部局長は、申請が複数件ある場合、本制度の目的等及び科研費の審査結果を考慮し、順位を付すこと。

- 提出期限：6月26日（平成21年度の場合）

科学研究費補助金に関する若手教員研究助成(3)

- 応募数 平成20年:52人
 平成21年:47人
- 採択数 平成20年:35人
 平成21年:30人

• 審査

科研費申請状況から部局毎の配分枠を決め、提案の有った上位から採択。

役員会で決定

科学研究費補助金に関する若手教員研究助成(4)

助成の成果

前年度実績 (50万円×35人=1,750万円)

採択種目	採択数	直接経費内定額(千円)				
		21年度	22年度	23年度	24年度	計
基盤研究(B)	1	8,300	3,700	2,100	0	14,100
基盤研究(C)	2	3,900	2,200	1,400	0	7,500
若手研究(B)	8	12,200	6,100	1,800	0	20,100
計	11	24,400	12,000	5,300	0	41,700

内定者所属部局

内定種目	所属部局
基盤研究(B)	工学部
基盤研究(C)	農学部, 遺伝子実験施設
若手研究(B)	人文学部2, 医学部3, 工学部3

大型の競争的外部資金獲得のための支援

目的

国が実施している大型の競争的資金に応募し、不採択になった研究課題に対して、研究資金を支援することを目的とする。

支援の内容

支援件数：6件程度

支援経費：1件あたり100万円

支援期間：単年度

応募方法

応募条件：大型の競争的資金（応募総額2000万円以上（直接経費））に応募し不採択となった課題

応募方法：・部局長は、当該部局を取りまとめ申請する

- ・申請件数に制限を設けない

大型の競争的外部資金獲得のための支援(2)

•応募数 平成20年: 7人

平成21年: 11人

•採択数 平成20年: 7人

平成21年: 6人

•審査

前提条件: 不採択になった研究課題に対する審査結果等を考慮し、獲得可能性の高い研究課題を優先。前年度同じ資金を貰っていないこと。

事前審査: 研究担当理事及び学部出身理事が審査役員会で決定

大型の競争的外部資金獲得のための支援(3)

助成の成果 前年度実績 (100万円×7人=700万円)

採択種目	採択数	直接経費内定額(千円)				
		21年度	22年度	23年度	24年度	計
基盤研究(B)	1	8,400	2,800	2,300	1,700	15,200
挑戦的萌芽研究	1	1,700	1,300	0	0	3,000
若手研究(A)	1	6,300	6,100	6,200	0	18,600
厚労科研費	2	45,752	5,000	5,000		55,752
JST事業	4	20,300	31,000			51,300
計	9	82,452	46,200	13,500	1,700	143,852

*) 上記は新規に採択された競争的資金の採択状況

内定者所属部局

採択種目	
基盤研究(B)	工学部
挑戦的萌芽研究	理学部
若手研究(A)	理学部
厚労科研費	医学部, 工学部
JST事業	理学部, 工学部3

女性教員の国際学会への旅費支援

目的

女性教員育成のための基礎づくりとして、女性教員が国内のみならず国際的に活躍できる環境を整備することを目的とする。

支援内容

支援人員：6人

支援経費：1件あたり30万円を限度

支援期間：単年度

応募方法

応募条件

本学の女性教員、国際学会で発表等をする者

当該学会参加のため既に他の機関から資金援助が決定している者は除く。

女性教員の国際学会への旅費支援(2)

応募件数: 1人1件

科研費に応募していること

応募方法

部局長は当該部局を取りまとめ申請する、申請件数に制限なし

•応募数 平成20年: 1人

平成21年: 6人

•採択数 平成20年: 1人

平成21年: 6人 現在追加募集(2人)中

•審査

役員会で決定

科学研究費補助金計画書に関するアドバイザー制度

- 目的

当該年度科学研究費補助金に応募したが、不採択となった研究課題について、科学研究費補助金計画書の「書き方」を中心にアドバイスをを行い、次年度の科学研究費補助金への応募を支援することを目的として本制度を導入した。

- 内容

①部局長から推薦を受けた教員をアドバイザーとして、部局毎に数名配置し体制を整える。

②アドバイザーは、科学研究費補助金計画書の「研究目的」及び「研究計画・方法」を中心に「書き方」について、アドバイスをを行う。

科学研究費補助金計画書に関するアドバイザー制度(2)

• 募集

(1)対象者

- ①当該年度科学研究費補助金に応募し不採択になった者。
- ②次年度科学研究費補助金に関する若手教員研究助成に応募する者(必須)。

(2)実施方法

- ①アドバイスを受けようとする者は、相談申込書(別紙様式)に科学研究費補助金計画書(写し)及び科学研究費補助金の審査結果(写し)(開示請求をしている場合)を添えて企画部研究支援ユニットへ申込む。
- ②企画部研究支援ユニットでは、部局毎に取りまとめアドバイザーへ依頼する。
- ③アドバイスを付記した科学研究費補助金計画書は、企画部研究支援ユニットから申込者へ返還する。

科学研究費補助金計画書に関するアドバイザー制度(3)

- アドバイザー

平成20年 17名(人文:2、地域教育:2、理:2、医:2、工:7、農:2)

平成21年 22名(人文:2、地域教育:2、理:2、医:7、工:7、農:2)

- 申請者

平成20年 55人(人文:5、地域教育:4、理:5、医:24、
工:13、農:4)

平成21年 49人(人文:6、地域教育:2、理:2、医:22、
工:13、農:4)

山形大学における組織評価

実施方針(平成18年3月15日制定)

1 評価の目的

各部局における教育, 研究, 社会連携, 国際交流, 業務運営等の諸活動について, 部局の自己点検・評価に基づき, 役員会が総合的に点検・評価することにより, 本学の教育研究活動の改善・向上に役立て, ひいては一層の活性化を図ることを目的とする。

2 評価の対象

評価対象組織は, 各学部, 各大学院研究科, 附属図書館, 医学部附属病院, 保健管理センター, 各学内共同教育研究施設, 各学内共同利用施設及び各附属学校とする。

3 評価項目(別紙のとおり)

(1) 評価項目は, ①部局における経営状況及び運営状況, ②基礎的データに基づく部局の教育研究活動状況(附属病院及び各附属学校を除く。)③当該年度の事業実績とする。

山形大学における組織評価 (2)

(2) 評価項目②に用いるデータは、各部局の努力結果を直ちに反映できるものとし、山形大学情報データベースで集計できるデータについては、各部局の自己点検・評価に先立ち、あらかじめ役員会が各部局に示すこととする。

(3) 評価項目及び評価方法は、毎年度役員会において、本学の中期目標・中期計画の実現に資する目的に応じて適宜変更することができる。

4 評価方法

(1) 評価項目①については、部局長の自由記述に基づき、役員会が中期目標・中期計画、中期財政計画等に照らして、各部局の経営・運営上の工夫や取組の客観的な進行状況について評価する。

(2) 評価項目②については、各部局の自己点検・評価に基づき、役員会が中期目標・中期計画等に照らして意図する実績や効果が得られているかを評価する。

山形大学における組織評価(3)

役員会の評価は、先ず第一次評価結果を各部局に提示し、部局からの意見申し立てを受けた後に、経営協議会学外委員による第二次評価を経て最終評価を行う。

なお、第一次評価結果を部局に提示する際には、役員会における評価の観点を明らかにすることとする。

5 評価結果の活用

(1) 評価の結果は、各部局への研究費配分やインセンティブ付与等に活用する。

(2) 平成18年度は、評価結果を活用した研究費配分に1,000万円を充当し、各部局に配分する。

(3) 平成19年度以降における評価結果を活用した研究費配分総額は、役員会において別に定める。

山形大学における組織評価(4)

別紙: 評価項目

1 部局における**経営状況**及び**運営状況**(全部局対象)

別紙1に定める様式に、部局予算及び学長裁量経費等の執行状況、意思決定の迅速化、任期制への取組状況、教育GP等外部資金獲得のための取組状況、国際交流の推進状況等部局の経営状況や運営状況などについて、部局長が1,600字以内で自由記述したものを役員会が評価する。

2 基礎的データに基づく部局の**教育研究活動状況**

別紙2に定める次の評価項目について各部局が行った自己点検・評価結果を役員会が評価する。

ただし、附属病院及び附属学校については、別表を作成し評価を実施する。

1) **教育**(学部・大学院対象)

- (1) 入学定員充足状況
- (2) 入学者の多様性
- (3) 収容定員充足状況
- (4) 教員配置状況
- (5) 修学指導状況
- (6) 学位授与状況
- (7) 卒業・修了後の進路状況

山形大学における組織評価(5)

2) 研究(全部局対象)

- (1) 研究活動状況
- (2) 特色的かつ高度な研究の状況
- (3) 産官学との研究連携

3) 社会連携等(全部局対象)

- (1) 地域社会への研究成果の還元・普及
- (2) 初等・中等教育機関との連携

4) その他

- (1) 第三者評価の導入状況(全部局対象)
- (2) 非常勤講師手当所要額の削減状況(学部対象)
- (3) 教員個人の教育・研究等活動状況のデータ入力状況(全部局対象)

3 部局における当該年度の事業実績(全部局対象)

毎年4月上旬に提出される当該年度の部局における事業実績報告を基に、役員会が中期計画の進捗状況及び年度計画の達成状況を評価する。

山形大学における組織評価(6)

平成20年度業務実績 (○学部・△研究科)

① 運営 (部局長のマネジメント)

状況 * 運営方針とその成果、運営課題とその対策などについて、300文字以内で記載してください。	特徴的取組 ① * 特徴的取組 (3項目以内) について、1項目につき100文字以内で記載してください。
	②
	③

② 教育

状況 * 教育の質の向上に向けた取組状況及びその成果、学生支援の取組状況などについて、300文字以内で記載してください。	特徴的取組 ① * 特徴的取組 (3項目以内) について、1項目につき100文字以内で記載してください。
	②
	③

③ 研究

状況 * 研究活動の状況及びその成果、研究支援の状況などについて、300文字以内で記載してください。	特徴的取組 ① * 特徴的取組 (3項目以内) について、1項目につき100文字以内で記載してください。
	②
	③

④ 社会連携

状況 * 社会との連携の状況、国際交流の状況などについて、300文字以内で記載してください。	特徴的取組 ① * 特徴的取組 (3項目以内) について、1項目につき100文字以内で記載してください。
	②
	③

特記事項 (特に優れた取組・特色ある取組)

* 平成20年度の優れた取組・特色ある取組のうち、特に強調したい取組を300文字以内で記載してください。

参考データ		平成19年度	平成20年度
規模データ	・学生数	人	人
	* 括弧内は留学生及び社会人(内数)	(留 人) (社 人)	(留 人) (社 人)
	・本務教員数	人	人
	・職員数 (事務職員、技術職員)	人 (女性 人)	人 (女性 人)
	女性教員比率	%	%
	・学内配分予算額	千円	千円
学部・研究科共通データ	志願倍率 (学士課程)	倍	倍
	収容定員充足率 (学士課程)	%	%
	収容定員充足率 (修士課程/博士前期課程)	%	%
	収容定員充足率 (博士後期課程)	%	%
	進学率 (学士課程)	%	%
	進学率 (修士課程)	%	%
	就職・進学率 (学士課程)	%	%
	就職・進学率 (修士課程/博士前期課程)	%	%
	就職・進学率 (博士後期課程)	%	%
	論文発表件数 (筆談あり)	件 (件/人)	件 (件/人)
	書籍発表件数	件 (件/人)	件 (件/人)
	特許発出件数	件 (件/人)	件 (件/人)
	受賞者数	件 (件/人)	件 (件/人)
	科学研究費補助金申請率 (うち新規申請率)	% (%)	% (%)
外部資金受入額	千円 (千円/人)	千円 (千円/人)	
研究	科学研究費補助金 (厚生労働省)	千円	千円
	その他の競争的資金 (科研以外)	千円	千円
	民間等からの外部資金	千円	千円
	受託研究・共同研究実施件数	件 (件/人)	件 (件/人)
社会連携	公開講座実施件数・参加人数	件 人	件 人
	地域社会への参画人数	人 (人)	人 (人)
	国際交流	件	件
国際交流	学術交流協定数	件	件
	研究者派遣人数	人 (人)	人 (人)
	研究者受入人数	人	人

平成20年度からの評価項目

山形大学における組織評価(7)

評価シート (平成20年度から 使用)

評価結果記入シート

評価者

氏名

(1) 人文学部

項目	評価	判断理由
運 営		
教 育		
研 究		
社会連携		
総合評価		

(2) 地域教育文化学部

項目	評価	判断理由
運 営		

(7) 医学部

項目	評価	判断理由
運 営		
教 育		
研 究		
社会連携		
総合評価		

各項目について5段階評価し、判断した理由（優れている点、改善が必要な点、特色がある点など）を記載してください。

総合評価については、各項目の評価を勘案し5段階で評価してください。

〈評価〉

5	特筆すべき状況にある
4	良好である
3	おおむね良好（標準）
2	改善事項がある
1	重大な改善事項がある

※評価は5・4・3・2・1の整数でお願いします。

組織評価結果

平成20年度組織評価の結果

評価実施日：平成20年10月15日

評価者：

学長、理事、附属病院
長、外部委員5人



組織評価結果 (2)

■「平成20年度組織評価」を実施して

【評価結果概要】

①運営面においては、学部長のリーダーシップをはじめとし、新たな研究科・専攻の設置などの組織改革、学部運営の改善の取組の実施、第三者評価・外部評価の実施について高く評価されています。

課題としては、一部の学部に教員評価の進捗状況に遅れが見られたことがあげられます。

[運営に関する注目事項]

○組織設置

- ・理工学研究科有機デバイス工学専攻
- ・医学系研究科看護学専攻博士後期課程

○第三者評価・外部評価

- ・病院機能評価(Ver.5.0)
- ・地域貢献活動の外部評価(理学部)

組織評価結果 (3)

②教育面においては、教育成果としての医師国家試験合格率や就職率の高さ、キャリア教育の推進、学生からの満足度の高さ、大学院の充実について、高く評価されております。特に、医師国家試験合格率(98.0%)が国立大学で1位という実績は、山形大学における医学教育の充実を証明しているといえます。

[教育に関する注目事項]

○就職率ランキング

・人文学部1位(読売ウィークリー)

○現代GP

・体験と実習を礎とする職業観形成法の確立(工学部 H18~)

○技術者教育認定制度(JABEE)

・4教育プログラム認定(工学部)

組織評価結果（4）

③研究面においては、科学研究費補助金をはじめとする競争的資金の獲得、論文発表等の研究の活発さ、地域に根ざした研究の推進が高く評価されています。

評価された取組としては、21世紀COEの成果を踏まえたグローバルCOEの採択、有機ELに関する研究、CERNにおける核子スピンの研究及び「世界遺産ナスカの地上絵」に関する研究の推進があげられます。

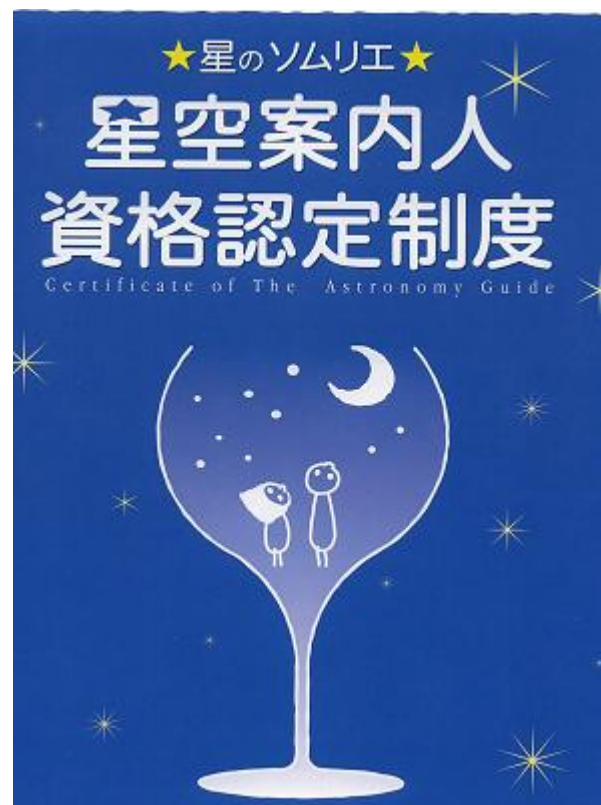
組織評価結果 (5)

④社会連携においては、全部局において積極的に取り組んでいると評価されております。

具体的には、地域における理科離れ対策や自然体験等の教育活動に関する取組が高く評価され、中でも、山形大学発となる「星空案内人(星のソムリエ)資格認定制度」はインパクトある取組として注目されております。

その他、地元自治体、金融機関と連携した地域産業の振興への貢献についても高く評価されています。

なお、国際交流については、あと一步の強化が必要との助言をいただいております。



組織評価結果（6）

⑤附属病院においては、再整備中にも係わらず継続して安定的に経営したことが高く評価されております。

その他、診療科の枠を超えた診療体制の確立やがんサートリートメントボードをはじめとするがん診療の推進、医師のリフレッシュ医学教育、医師の適正配置など、地域医療への貢献も高く評価されております。



組織評価結果(7)

インセンティブ経費の配分

平成18年度 合計1000万円

6学部+病院:55万~202万 計800万

センター:6~19万計200万

平成19年度 合計2000万円

6学部+病院:163万~350万 計1640万

センター:18~30万 計360万

平成20年度 合計5000万円

6学部+病院:1000万×2、500万×3、250万×2 計4000万

センター:30万円~100万円 計1000万円

平成21年度 合計4000万円

6学部+病院:1000万×2、500万×3、250万×2 計4000万

御静聴ありがとうございます